

職員の皆さんへ

毎日暑い日が続きますが、それぞれ健康管理に気をつけて集中力を切らさずに頑張ってください。

このところ例年にない気象状況が続き、局地的な豪雨に見舞われる一方で記録的な猛暑が続き、熱中症などで救急搬送される事案も全国各地でもれなく発生していると聞き及んでおります。このような時こそ、市民相互に声を掛け合い支えあって安心安全な暮らしを守る取り組みが必要です。そうした心がけを職員自らが率先して行動してほしいと思います。

ところでこのたび佐世保市内の県立高等学校の生徒による驚天動地ともいえるべき大変な事件が発生しました。これまで特に長崎県教育委員会や佐世保市教育委員会の指導の下に各学校においても、ここ数年間に頻発した類似事件の反省のうえに立って特に夏休みを前にして、多感な少年期にある子供たちに対して『命の尊さ』について各教育現場でも改めて指導を強化していたさなかに起きた事件だけに極めて残念な出来事でありました。

この上はこれらの事件を「決して起きてはならない教訓」として市民の一人ひとりが心を一つにして安全で安心して暮らすことのできる豊かな家庭や町づくりに格段の努力を傾注しなければなりません。

さて本市の「ふるさと納税事業」は全国的に注目が集まり、本日8月1日にはTBS系の全国放送でも取り上げられるとお聞きしております。ますます寄附者が拡大することが予想され、貴重な財源確保とともに平戸市の優れた物産が全国へ広がるチャンスの到来は最早確実であり、その昔近江商人中村治兵衛が遺したとされる「売り手よし、買い手よし、世間よし」のいわゆる『三方よし』の家訓を平戸市が教えをそのままに、いち早く具現化していると思うのであります。

こうした事業展開につながった一つには、ひらど新鮮市場や平戸瀬戸市場などにおいて平戸産にこだわった農林水産物や工芸品、菓子類などの品揃えが整い、ギフト化が進んだことによる「パッケージ戦略」が功を奏したものと思われま

す。つまりこれは、従来の「業務の縦割り」という枠組みから「横串しに連携する」という相乗効果が新しいアイデアや事業展開に結びつき、多くの賛同者を呼び込むことになった具体事例ではないでしょうか。

したがってこれからも、例えば農林水産部門と福祉部門、あるいは教育部門と福祉や商工関連部門が連携することによって、市民のニーズに応えうる新しい事業が生まれるかもしれないということです。もちろん4月からの機構改革はそうした土台をつくる意味での改革でありましたので、職員各位の柔軟な発想と実践力を今後とも期待したいと思います。

さて7月31日には、第2回目の議会と市長による政策懇談会を行ないました。その席上、私は具体的な施策の方向性を示すとともに、そのタタキ台に沿って定例議会一般質問などにおける議論による政策構築をお願いしたところであります。

その大きなテーマは「人口減少をいかに食い止めるか」と「その受け皿となる産業振興をどのように進めるか」とう二つの命題です。その理由は、先に述べた平戸市の魅力が広がりつつあるにも拘わらず、人口減少率が県内自治体の中で対馬市に次いで悪く深刻な状況が想定されるからです。

他の自治体でもすでに人口減少抑制のために様々な分野で取り組みが始まっています。雇用や結婚・子育て支援などは従来実践してきた施策ですが、これに留まらず、教育委員会や建設部においてもそうした観点から施策の意義を再点検し、若者が住みたくなるようなニーズを反映した内容に転換していかなければならないと思います。

またすでに市内には、将来も平戸市内に住み続け親とともに家業を発展させる決意をした若者や都会暮らしを離れて平戸に永住することを決意した中堅層の方もいらっしゃいます。こうした方々にスポットを当て、その崇高な覚悟を共有しながら私たちも一緒になって地域の発展に力を尽くしたいと思います。

これらの問題意識は国や県も同様に位置づけており、政府は「地方再生」を重点施策に掲げ来年度の予算編成に盛り込む予定と聞いております。そうした時に平戸市としてもこのような動きに同調して施策展開をしなければならないと思っています。

従ってそれぞれの立場にある皆さんも情報収集をしっかりと行ないながら、そうした国や県レベルの施策をどんどん導入することによって、日本国内でもモデル自治体となれるよう全精力を注いでほしいと思います。

今月は「子ども議会」が開会されますが、若い世代から寄せられる新鮮で鋭い質問にしっかりと答えてまいりたいと思いますし、その中で実現可能性の高いものは積極的に採用してまいりたいと考えています。

質問に登壇される生徒はもちろん傍聴する生徒たちにとってもこの機会に無限の可能性を秘めた若い感覚で「開かれた行政」「身近な市政」として感じて頂き、行政との距離感を払拭して「僕らにも将来色んな形で行政に参加できるんだ。」という認識を身に付けることが出来れば今回の子ども議会がより貴重な経験になるものと確信します。

また22日には待望のJR九州のジェットfoil「ビートル」の試験走行が実施され、まさに20年ぶりにその雄姿が平戸港にお目見えしますが、同時にそ

こには世界的指揮者であり、平戸市名誉大使でもある西本智実さんが乗船して平戸港に上陸されます。市民を挙げて歓迎しその感動を「世界遺産登録推進コンサート」へとつなげることによって、この記念すべき事業がもたらす成果を背景に平戸の魅力と価値を全国へ向けて更に発信したいと思います。

それからお盆で帰省されるご親戚やご友人には、こうした私たちの活動や市民の皆さんの思いを伝えていただくとともに、それぞれの立場で平戸市への期待や要望などを広く見定め聞きとめていただきたいと思います。そのことが故郷を離れても平戸市のことを思い続けてくださる方々を呼び戻す力になることも期待できるからです。

いずれにしても、これらの思いを実現するには、何よりも健康第一です。どうか夏バテなどにならないように気を付けられ、この暑い夏をご家族とともに元気有意義にお過ごしいただければと心から願っています。

職員皆様のご努力に期待します。

平成 26 年 8 月 1 日

平戸市長 黒田 成彦